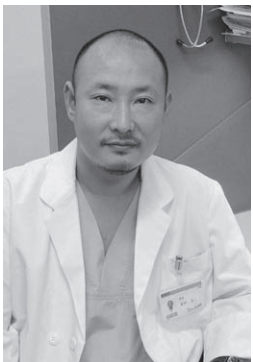


急性期治療後のフォローは地域連携パスで 心臓血管センター循環器科医長 喜納直人医師

（日本内科学会認定医／日本循環器学会認定専門医／日本心臓血管センターベンシヨン治療学会認定医／臨床研修指導医）

喜納医師は城山病院に赴任して2年、循環器疾患の急性期治療で救った患者さんから感謝の言葉を聞くたびに思うことは「再発せずに元気でいて欲しい」。そんな熱い思いで「地域連携パス」というシステムを今年1月より始動させている喜納医師に話を聞いた。



心疾患の背景にあるのは生活習慣病

5年ほど前のことですが、当時勤務していた病院で、現在、一緒に勤務している嶋田循環器科部長とともに約1200人の心筋梗塞の患者さんの退院後を調べたことがあります。今とは治療内容も異なっている点もありますが、全体の約6%が再発しており、特に再発しやすい患者さんは糖尿病を患っていたり、心筋梗塞を発症した時にはすでに、他にも心臓血管に狭窄病変を有していたことが分かりました。つまり、退院後の再発を防ぐためには生活習慣病を管理することが非常に大切なのです。

治療数が増えると悩みも増える？

ここ数年、当院で心臓カテーテル治療を受ける患者さんが増加しています。昨年はのべ350人の患者さんが治療を受けられ、そのうち約1/3以上が緊急での治療でした。心筋梗塞や不安定狭心症といった急性冠症候群の占める割合が高く、これには、当院での救急患者さんを受け入れる体制が充実してきたこ

とが背景にあります。しかし、同じ症例数をこなす他の病院と比較すると、まだまだカテーテル治療を行う医師の数が少ないのが現状です。このままで行けば、1人1人の患者さんの再発予防のフォローが、自分の外來だけではこなすことができなくなるのは必至です。自分の患者さんがハッピーでいられるために今回のシステムを構築しました。

それはかかりつけ医と情報を共有すること

以前から医療の地域連携には関心がありました。これは地域の医療レベルのアップになり、患者さんだけでなく、健康な市民の方々も安心して住めるまちづくりにもなります。退院後も心疾患において引き続き、身近なかかりつけ医のもとで日常診療をきちんと受けられるようになることが、疾患の再発防止に最も有効な手段です。そのためには開業医の先生に、当院で行った治療や投薬内容、今後の当院での検査予定などを的確に伝え、情報を共有することが必須です。今回構築した「地域連携パス」には、主治医がかかりつ

け医の先生方に何を管理していただいたのかを具体的に示す工夫をしました。これは電子カルテのなせる技でもあります。患者さんの治療に携わる医師やコメディカルスタッフがインプットした情報を即座に取り出してかかりつけ医の先生方にお渡しできるのです。もちろん、それらの内容は患者さん本人にも知ってもらい、健康管理に励んで頂けるようにしています。

地域の中心的医療施設としての使命感

実は急性心筋梗塞も脳卒中、糖尿病、胃癌とともに、大阪府保健医療計画の中でも地域連携が進められています。南河内圏域の開業医の先生方には十分に浸透されていないのが現状です。その原因の一つが情報伝達の方法だと思っています。心疾患の分野で地域医療の中心的存在になりつつある当院には地域医療を牽引していく使命があると思います。「地域連携パス」は今年から始動したばかりです。今後は患者さんやかかりつけ医の先生方のご意見を聞いて改良し、地域医療に貢献していきます。